

令和6年度第3回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和7年3月14日（金） 10：00～11：40

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 委員6名 事務局5名

（委員） 米谷 啓和 座長 三宅 靖子 委員 大西 麻衣子 委員
中安 学 委員 八田 友和 委員 本上 聖子 委員

（事務局） 市民参画部 岸本 部長 市民活動推進課 門口 課長
市民活動・ボランティアサポートセンター 岸本 所長 吉田 係長 杉尾 主事

次 第

1 開 会

2 議 事

報告

ひめじ de ボランティア2024の実施報告について

議題

市民活動・ボランティア活動に関するアンケート結果について

その他報告事項

3 閉 会

会議の進行記録（要点記録）

議 事（報告）「ひめじ de ボランティア 2024 の実施報告について」

事務局： 資料に従って説明

座 長： 何かお気づきになられたことはあるか、まずは「ひめボラ」からお伺いしたい。

構成員： 多くの方に参加していただいたが定着までが難しいなと改めて感じた。定着させられるかどうかは団体側の努力の問題。その入口を作ることが主催者としてのひめじおんの役割だと思うが、団体として次も参加しようと思う取組をしていないといけない。

構成員： 定着がすごく難しく感じた。ボランティア体験者の受入の際、社協職員が同行した。社協職員はボランティア受入に対して理解をしているが、実際に受け入れるのは、社協ではなく地域のボランティア（社協支部）である。その際、社協が社協支部に対して、ボランティア受入に対する理解をしてもらう働きかけが足りなかった。体験者が継続して参加できていないので、社協と受入団体側の反省点。

構成員： ひめボラが 2 年目になって市民の中に少しは浸透してきていると感じた。アンケート結果の中にもっと学校にアピールしてほしいという声があったが、大学で掲示を出しているものの学生に浸透しているかが不透明。学校などに対してどのような広報活動をしているか伺いたい。

事務局： 大学に関しては姫路市内の大学の事務担当者会議に出席し、告知協力を仰いでいる。学生まで届かない部分は各大学の教員にも直接依頼をかけている。ただ、情報を届けるべき効果的な窓口や教員を学校ごとに全ては把握できてないのでそこは知りたいところである。

構成員： 大学とうまく協力できるとさらに事業が活性化するのかなと思う。

事務局： どのようなルートで届けるのが一番学生に届くのかというところが難しい。大学でボランティアの講義があれば、担当の教員に依頼すれば良いとは思いますが、そこまでできていなかったなので引き続き検討が必要。良い広報先等あれば教えてほしい。

構成員： 学生たちは機会があったらボランティアをしたいと思っている学生も結構いると思う。

事務局： 補足だが、前回の運営会議で、その場での体験だけでなく地域課題の発見という初期の段階から学生たちが体験・実践できるようなアプローチを学校に向けて行えばどうかという意見があった。そこで、現在各高校で取り組んでいる探究学習の一環として、ボランティア団体もその活動先の選択肢に入れてもらいたいと考えている。今後、各高校の担当教員を訪問し事業説明を行っていく予定。

座 長： 高校に初期段階で情報を提供しておくと思える可能性が高い。

構成員： 高校では総合的な探究の時間だけではなく、全ての教科・科目で探究の要素が入っており科目名も大幅に変更され、一つ一つの科目でも探究的な学びが求められている。それらを横断的に進めていくことが総合的な探究の時間とされている。地理とゴミ拾いのように一見関係ないようなものでも結び付くことによって、新たな発想が生まれることもある。様々な地域団体があるからこそ、そこに様々な探究の芽がある。

ボランティアというより単なる参加者だったというアンケートの意見も良くないことばかりではない。ひめじ de ボランティアの“実際にやってみる、ちょこっと触れてみる”という視点で捉えると良いことではないかと思う。おそらく、体験だからこそ安心して参加できている人もいるが、アンケートに書いていないので声を拾い上げきれないという側面もあるのでは。

座 長： 昨年のひめボラでは自団体でも受け入れをしたが体験内容の加減が難しい。ただ、2回3回と続けることによって団体側も加減がわかる。次回に向けて、団体にアンケート結果などフィードバックができるとよい。

構成員： 広報活動が充実してきたと思った。活用媒体が増えており、目に触れる機会が増やされていると感じた。センターの SNS を見ているが細かく情報をあげていて一般の方の目に触れやすくわかりやすいと思った。体験プログラムに関しては、参加すればどのようなことが体験できるのかを分かりやすいものにすれば、参加してみたいと思う方も増える。最初の段階でどれだけわかってもらえるが大事だと思う。体験内容も団体によってバラつきがあるので、それもある程度分かった方がいいのでは。

座 長： 例えばプログラムに三つぐらいの指標を設けて、一目で体験内容のレベルが分かるような工夫があればよいと思う。

続いて、「ひめボラ市」に話を移したい。

ひめボラ市も今年度が 2 回目だが昼前は人が少ないように感じた。当日は晴れていたが、天気が悪い場合はどのように行う予定であったか。

事務局： 出展ブースは屋外の団体を屋根があるところへ移動させ、ステージ発表は機材の関係で中止にする予定であった。

構成員： 当日のボランティアスタッフとしての参加は 2 回目であったが、1 回目を踏まえて改善されており、進行もスムーズで良かったと思った。地下通路エリアへの繋がりへの作り方は 1 回目から難しさがあったが、地下通路での出展団体が「地下でスペースを広く使えてよかった」、「また次回もここを使いたい」という意見があったので、その場所に向けた団体もあるので改めて良かったと思った。
また、アンケートで「開催時間をずらしたらどうか」という意見があったが、終了時間が後ろにずれ込むと、天候にもよるが寒い時間帯に入ってくるため、実際問題どうかなという印象を受けた。まだ課題はあると思うが良くなっていると思った。

座 長： 地下通路は噴水の音が大きいので、会話型の団体は地下じゃない方が良い。スタンプラリーは実施したか。

事務局： スタンプラリーは今回行っていない。今後は回遊性向上の一つの案として考えていく。

構成員： 当日参加したが、昨年より全体的に分かりやすく満遍なく回ることができ良かった。受付にもボランティアの方が参加されており、すごく楽しいという声も聞いた。みんなで作り上げていくという点で、ボランティアする側も楽しいと感じられる役割を担ってもらえたことができたと感じた。

座 長： 参加した後に社会に貢献できているという実感が得られる場であれば良いと思う。

構成員： 当日少し参加した。出展団体が自団体の 1 年間の活動を発表や披露する場が少ないと思っていたので、多くの方に見てもらったり交流を持ったりする場は大切だなと思った。集客は難しいと思うが、団体側のメリットや喜びも大きいだろうなと思った。

構成員： ひめボラ市の位置づけとしては、ひめじおんまつりの第 2 弾のようなところがあると思う。ひめじおんまつりは参加団体同士の内輪だけで交流していたが、場所が市民会館から姫路駅前に変わり、外部の人にブースやステージを少しでも見てもらえることは良かったと思う。昨年に比べ今年は一体感が出てきたとのことだが、回を重ねるごとに継続に向けてどういう取組ができるのかをいろいろな意見も汲み上げながら考え、改善を続けていければいいイベントなると思う。

座 長： 参加団体・参加者・運営サポーターにアンケートを詳しく答えてもらえているので、それぞれの属性ごとに反映していくと第 3 回目が楽しみだなという印象を受けた。

構成員： 姫路駅前での開催と近隣でイベントが競合したという点はマイナス面もあるかもしれないが、人を集客するという意味ではとても立地が良く興味関心を引きやすいので広範囲に知ってもらえたと思う。日程や場所の設定は効果があったのでは。ボランティアの人が楽しかったという声があったことが一番の成功なのではないか。
地下はもう少し明るければ地上との差が減り行き来しやすくなるのでは。全体的に良い意見や楽しかった様子が感じられて良かった。

座 長： 屋外で開催する良い面が出たと思う。同日に姫路の各地である様々な事業やイベントと連携ができるのでは。拠点が一つではなく複数あってもいい。

事務局： 補足だが、多くの団体が体験受入時のプログラムづくりを課題に感じていることから、来年度のひめじおん講座で「ボランティアのより良い受け入れ方講座」を行う予定。どのような活動プログラムにしたら団体にも参加者にも良い内容になるかを考えてもらい、実際にプログラム作りをしてもらう講座を考えている。

議 事（議題）「市民活動・ボランティア活動に関するアンケート結果について」

事務局： 資料に従って説明

座 長： たくさんの団体や個人から熱心に答えてもらえているということはセンターに対する期待や感謝があるのでは。意見はセンターの方で受け止めて来年度以降の運営に役立ててもらいたい。

構成員： 先日、姫路市市民会館が閉鎖になるというニュースを見たが、アンケートの中でも姫路市市民会館を活動場所としている団体があった。今後、センターの移転などの情報提供を踏まえて考えていく必要がある。

座 長： センターが別の拠点になるかなどの意向については、丁寧な情報提供が必要。

構成員： アンケートでは団体のメンバーの少なさや高齢化がキーワードとして多かった。また、後継者が少ないという問題はどの団体も共通で持っている課題だと感じた。NPO 法人の集まりで聞いた話だが、NPO 法人は役割を終えると解散する。世代交代をせずに解散をしてもまた別の NPO 法人が出てくるので、気にしなくていいという意見があった。それは市民活動にも共通するのではないかと感じた。課題として考えることはよいが、市民活動の場合は趣味の延長でしている団体も多いので無理に後継者を作らなくてもいいのではないか。そこをセンターがどのようにサポートしていくのかは難しいところではある。

団体も意見を求められると資金がないなど勝手な意見を書いて来るため、どこまで意見を汲み上げないといけないのかというところも難しいと感じた。

座 長： NPO は目的を達成したとき、あるいは達成できないとわかった時点で、もう役目が終わったものとして解散するのが元々の成り立ち。地域団体などは親睦的なコミュニケーションの場にもなっているため、その割合をどう按分していくかを考えることが必要。

構成員： 膨大な情報なので集約するのは大変だったと思う。大学と協働したいという団体の声も多かった。新たに連携・協働したい相手が具体的にどんな相手かというところで、大学には様々な学部・学科があり学生たちの中には高齢者や障害者の方たちのためにボランティアしたいという声もある。団体と大学がうまく繋がりが持て連携することができると学生たちの学びにもなるので、接点づくりを考えていってほしい。この情報を発展的に捉えていけたらいい。

構成員： 「活動日を現役世代が参加できる日程に変更したところ新規参加があり、負担を減らすようにできた」というアンケート意見について、社会福祉協議会がお世話になっている団体は地域の自治会等とも連携しているので、地域の人との連携が必要。活動を続けていくためには「人」が一番大切なので、生活とボランティア活動が両立できるような運営の仕方も今後考えていく必要があると感じた。

構成員： 全体的な意見として、自団体のことを知ってほしいと思っている団体が多いと感じた。そのために日頃からセンターとして HP の提供や SNS での情報発信、センター通信で団体の活動を取り上げたりしてきているが、今まで以上にできることがあるのかどうかと感じた。

センターの HP（市民活動ネットひめじ）の中で団体ごとに団体情報ページを提供していることが特色だと思うが、ページの更新は各団体で行う必要がある。頻繁に情報更新している団体がある一方で、全然更新されておらず掲載情報が古いままの団体がある。HP の管理も含め、持っている資源を活用するという意識を団体にも持ってもらえたら良い方向に向くのでは。

座 長： 団体登録更新時に HP の情報更新の依頼をしてみてもは。
若い層向けのボランティアや社会との繋がりを生むような機会をつくるのが必要。
また、人員や資金面からも今後はできるだけ企業や行政との連携を促すことが必要で、うまく繋がれば団体にも人員や資金の確保が得られるのでは。
センター登録団体に公民館などの公共施設の優先予約制度があれば登録団体も増えるのでは。